

包装基礎コースの特徴

- ①わが国唯一の包装人材養成のための体系的短期間入門コース
- ②わが国包装、流通界の権威者・専門コンサルタントによる充実した講師陣
- ③総合的、体系的、有機的に関連付けられたカリキュラム
- ④具体的な事例を取り上げた内容

* 包装管理業務に初めて従事される方にも総合的な包装の基礎を理解・把握して頂けます。



公益社団法人日本包装技術協会 各種研修活動のご案内

■人材育成コース

①包装新人研修コース(4月開催)

入社1～2年目の新人を対象に初歩の一般的な包装基礎知識の習得を目指します。

②包装基礎コース(5月開催)

入社3年目以降、または新たに包装分野に就かれる方を対象に、包装の全ての分野にわたり短期間習得を目指します。

③包装管理士講座(6月開催)

包装基礎コースの内容より一歩踏み込んだ広義の専門知識の習得を目指します。一般講義、グループ討議、ケーススタディ等合宿を通して交流親睦を図ります。

④包装専士講座(6月開催)

専門分野の深度化と高度化を目指します。輸送包装・食品包装・包装材料・医薬品包装の4コースを開講予定。

■専門別人材育成コース

⑤フレキシブルパッケージコース(11月開催)

食品包装に必要な知識と最新情報について月1回の頻度で計5回講義を行います。

⑦緩衝包装設計コース(1月開催)

緩衝包装の目的、力学基礎、設計技法を実際の緩衝設計プロセスに沿いながら解説します。

⑧段ボール包装設計コース(2月開催)

主に初心者を対象に段ボールの特性を学び、実習時に段ボール箱を作成します。

■時事テーマ別講演会

⑨化粧品包装セミナー(7月開催)

化粧品包装のデザイン、新技術、包材、化粧品業界の動向についてプログラム編成します。

⑩包装材料セミナー(1月開催)

新包材・開発事例・包装資材にまつわる問題や法律の説明、素材別マーケット動向について紹介します。

⑪パッケージイノベーションセミナー(2月開催)

新しい包装の価値を創出するための情報の紹介を中心に、デザイン・販売戦略・分析情報・環境対応事例・UD・消費者へのPR等様々な分野からのテーマでプログラムを編成します。

⑫包装近未来シンポジウム(3月開催)

2030年に向けたグローバル戦略・サステナビリティ社会・包装新技術・変わる消費者の動向を探る事を目的として開催します。プログラム後半にパネルディスカッションを行います。

⑬医薬品包装セミナー(3月開催)

医薬品包装の法規、新技術、包材、医薬品業界の動向についてプログラムを編成します。

お申し込み方法

- 1 当会ホームページよりお申し込み願います。
- 2 申し込まれた方には後日受講料請求書をお送りします。受講料請求書記載銀行へ開催前日までに銀行振込にてお支払い下さい。
- 3 テキスト(資料)は会場でお渡しします。受講者以外にはテキストをお分けすることは出来ません。
- 4 開催1週間前からの受講料の払い戻しは致しません。申し込まれた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。

第57回包装基礎コースの参加申し込み方法について

今年度より、包装基礎コースのお申し込みを、ホームページからのみの受付とさせていただきます。お手数ですが、当会ホームページをご覧の上、お申し込みページより、参加登録を頂きたいお願い申し上げます。

URL:<https://www.jpi.or.jp/index.html>

第57回

JPI包装人材育成コース

包装基礎コース

包装の全分野における体系的短期間入門及び実践講座

■開催日: 2024年5月21日(火)～24日(金) 全4日

■受講対象: 入社3年目～新たに包装分野に携われる方

■主催:  公益社団法人日本包装技術協会

ご受講のご案内

包装基礎コースは、当協会における教育活動の一環として位置付けられ、各社の社員教育、また管理職の方々の体系付け等に利用されております。更に包装管理士講座の前段としての意味から、組み合わせ受講される方も多くなっております。50年にわたり継続しております事は、当コースが会員会社はもとより、関係各位から教育の一環として認められ、利用されてきた事に他なりません。従来同様、包装の基礎知識から昨今の諸問題に至るまで全般を体系化したプログラムを編成しておりますので、この機会に多くの方々に興味を持ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

開催要領

日時 2024年5月21日(火)～24日(金) 全4日

会場 東京都台東区浅草橋1-22-16
ヒューリック浅草橋ビル カンファレンスROOM 0

定員 70名(先着順受付、定員になり次第締め切ります)

受講料 JPI会員: 72,600円(消費税10%・テキスト代含む)
一般: 83,600円(消費税10%・テキスト代含む)

* コロナ禍での緊急事態宣言などにより会場での開催が難しくなった場合は、オンライン配信(Zoom)での講義に変更させて頂く可能性があります。



受講対象

本コースは包装や物流に関する専門知識の普及を目的として開講します

- 基礎知識をさらに深め、体系づけたい方
- 商品企画・開発に携わられている方
- 包装設計を担当される方
- 近年中に「包装管理士講座」を受講される方

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL. 03-3543-1189/FAX. 03-3543-8970
e-mail:satou@jpi.or.jp
協会ホームページ:<https://www.jpi.or.jp>

* 受講申込者には必ず受講証・受講料請求書をお送りします。お申し込み後、1週間以上たってもお手元に届かない場合には、当会までお問合せ下さい。

個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報は「第57回包装基礎コース」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 受講申込みにより、ご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示、提供することはありません。

第57回包装基礎コース

●日程と主な内容●

第1日目 5月21日(火)

10:00~11:50

●包装概論と包装技法

1. 包装産業の規模
2. 包装の定義と分類
3. 包装の役割と包装設計
4. 包装形態の種類と用途
5. 品質保持・機能性材料
6. DX化(デジタル印刷他)
7. 環境配慮

13:00~14:40

●ガラスびん・金属缶・プラスチック容器の基礎

ガラスびん・金属缶・プラスチック容器の原材料の特徴、利点、欠点及び用途と製造法、環境対応について説明する。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. はじめに | 3. 金属缶 |
| 1) 包装と容器の関係 | 1) 原材料の特徴 |
| 2) 容器に求められる機能・役割 | 2) 利点と欠点 |
| | 3) 用途および製造方法 |
| 2. ガラスびん | 4. プラスチック容器 |
| 1) 原材料の特徴 | 1) 原材料の特徴 |
| 2) 利点と欠点 | 2) 利点と欠点 |
| 3) 用途および製造方法 | 3) 用途および製造方法 |

14:50~16:30

●プラスチックフィルム

1. 基本的な包装の働き
2. プラスチックフィルムについて
3. フィルムの主な製造方法
4. フィルムの種類と特徴
基材フィルム/シーラントフィルム
5. 包装用フィルムの加工
印刷加工/ラミネート加工
6. フィルムを使用した主な包装形態
製袋機/包装機
7. 環境配慮への取り組み

講師 大日本印刷株式会社

研究開発・事業化推進センター事業開発本部
食とヘルスクエア事業開発ユニット開発第2部第1課
課長 多島 和弘 氏

講師 アサヒビール株式会社

パッケージング技術研究所
(包装管理士) 冨野 義孝 氏

講師 ユニチカ株式会社

包装フィルム営業部 市場開発グループ・主任部員
(包装管理士) 鈴木 知治 氏

第3日目 5月23日(木)

10:00~11:50

●段ボール

1. 段ボールの生産量(世界・日本)
2. 包装材料の中の段ボールの比率
3. 段ボールの種類
4. 段ボールが箱になるまで(貼合)(印刷)(抜き・接合)
5. 段ボールの特徴(メリット)
6. 段ボールの基礎物性と強度
7. 包装試験の種類と方法
8. 段ボール箱の構造
9. 段ボール箱の設計(基本設計)
10. 特殊段ボール
11. 段ボールの安全率
12. 段ボール箱のデザイン
13. CADによるデジタルデータ運用
14. 段ボールとリサイクル

講師 王子コンテナ株式会社

営業本部 CS推進部 包装技術 主幹
(包装管理士) 中山 勝博 氏

13:00~14:50

●輸送包装設計

1. 衝撃と振動
・SI単位、量記号表示
・速さ、重さ、作用力
・振動特性
2. 輸送包装設計の方法
・輸送包装設計のアプローチ
・輸送包装の種類
・包装貨物試験
3. 緩衝包装設計の方法
・緩衝材の種類
・緩衝設計の基本
4. 輸送包装設計の総合演習
・緩衝設計
・積載効率

講師 株式会社 石野製作所

専務取締役
(包装専士) 高橋 二郎 氏

15:00~16:50

●段ボール包装設計

1. 段ボール包装設計の手順
・包装設計のポイント
・設計に必要な条件
2. 段ボールの寸法設計
・段ボールの種類
・寸法設計の原理
・基本伸ばし寸法
・0201形の標準加算値
3. 段ボール箱の強度設計
・求められる強度特性
・段ボール箱の圧縮強さ推定式
・段ボール箱の材質選定方法
・安全率について
・段ボール箱の材質選定例

講師 レンゴー株式会社

包装技術第一部 東京包装技術第一課 担当課長
(包装専士) 高比良 仁司 氏

第2日目 5月22日(水)

10:00~11:50

●板紙・紙器

1. 紙器用板紙
(1) 紙とは
(2) 紙の分類
(3) 板紙とは
(4) 板紙の分類
(5) 寸法と坪量
(6) 紙の特性
2. 紙器
(1) 紙器とは
(2) 紙器の設計
(3) 紙器の製造

13:00~14:50

●環境対応パッケージの喫緊の課題

EUは、EU市場で流通する物流を含むすべての包装材料は、recyclable認証品でかつrecycled plasticsを一定割合以上含む包装材料を使用することを義務化する。包装及び包装廃棄物指令(PPWD)を規則に格上げして2024年春に発布予定。日本から輸出する多くの包装製品はこの規則の適用を受ける。EUは既存の回収streamが利用できることが条件で、金属、ガラス容器、PETボトル、単層のプラスチック容器などは比較的対応は容易であるが、プラスチック、紙、アルミ箔、インキ、バリア材料を使用する軟包装材料や多層容器は、特に課題が多く対応が難しい。表面材質は確認できるがラミネート品は層構成の確認が難しく、欧州でも回収品の選別技術開発に余力がない。またメカニカルリサイクル品はアップサイクリングのために脱インク、剥離技術が必須となっている。欧米の最新の動きや対応事例を説明し我々国内の包装業界の対応策を考えたい。日本は義務化ではないが世界の包装の流れに従うことが必要であり、対応が喫緊の課題である。

講師 住本技術士事務所

所長
住本 充弘 氏

15:00~16:50

●食品包装設計の基本

1. はじめに
2. 食品包装設計の基本的な考え方
・包装の機能、定義
・安全衛生、サステナビリティ
3. 食品包装設計の進め方
4. 食品包装開発の事例紹介
・品質保持包装
・ユニバーサルデザイン包装
・環境対応包装
5. まとめ

講師 雪印メグミルク株式会社

ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室
容器包装開発チーム・主査
(包装管理士) 山住 弘 氏

第4日目 5月24日(金)

10:00~11:50

●輸送包装の実際

1. 包装貨物の物流
2. 輸送・荷役・保管手段
3. 輸送環境
4. 包装貨物試験法
5. 輸送包装の役割
6. 輸送包装に関する法規制
7. 輸送包装例

講師 三菱電機株式会社

生産技術・ロジスティクス部
(包装専士) 武田 正臣 氏

13:00~14:50

●パッケージデザイン概論

パッケージデザインは商品の作り手と生活者を結ぶ媒体であり、問題解決の手段です。この講義では多くの商品事例からパッケージデザインの特性を紐解きながら、商品コンセプトから一貫したデザインを作るためのポイントを俯瞰して捉えます。商品価値を高めるパッケージデザインを作り手が協力してつくりあげる、その一助となれば幸いです。

講師 武蔵野美術大学

造形学部 通信教育課程 教授
福井 政弘 氏

15:00~16:50

●防湿包装・ガス遮断包装(バリア包装)

包装の役割の一つは、消費者が使用するその時まで、内容物の保存(劣化を防止)することであり、その保存可能な期間に重要な要素が包装材料のバリア性である。本講義では、内容物に影響を及ぼす様々な要因に対する、包装のバリアについて学ぶ。

1. 包装とは(1-1包装の目的/1-2バリア性とは/1-3バリア材料)
2. 各バリア材料の特徴(2-1プラスチック中の気体の透過/2-2バリア材料の歴史/2-3各バリア性材料の特徴)
3. 防湿包装(3-1防湿包装とは/3-2透湿度とは/3-3透湿度の温湿度依存性/3-4包装内容物と水蒸気の関係)
4. ガス遮断包装(4-1ガス遮断包装とは/4-2各プラスチックのガス透過度/4-3ガス遮断包装技法/4-4乾燥剤と脱酸素剤/4-5シエルフライフに影響を与える因子と対策(参考))
5. バリアフィルム等の動向

講師 藤森工業株式会社

研究所 ライフサイエンス開発部
機能性容器開発グループ/上席主任研究員
(包装専士) 小野 松太郎 氏